

枚方療育園見学記

去る9月26日（月）、昭和44年に大阪府下で最初の重症心身障害児施設（以下を重症児施設という）を開所された枚方療育園を見学させて頂きました。当園は定員400名という全国的にも飛び抜けた超大規模な施設であり、平成13年に大阪府下で2番目に「四天王寺和らぎ苑」が開所されるまで、32年もの間、唯一の重症児施設として運営されてきました。

私達重症心身障害児（者）を守る会大阪支部が発足して10年になりますが、枚方療育園の保護者会とは殆ど交流を持つことが出来ずに今日に至っております。

今回は2年前に全面的に新築され、300人が一同に入所されている新病棟（一病棟50人で6つの病棟、計300人で構成）の内、特に医療ケアを必要とする病棟を見学させて頂き、施設の一端を知ることができました。短時間でもあり、全てを見学してではありませんが以下思いつくままに感じたことを列挙します。

- 大阪府の南の我が家から遠い位置（大阪府でも北側で京都府に近い）で、かなりの時間がかかりました。
 - ・定員が400名ということであまりの規模の大きさに驚きました。今後、地域福祉、在宅福祉といわれる中、どのように進められていくのか大きな関心を持ちました。
- 一階玄関口ビーは、ホテルのような広さと吹き抜けの空間が確保されていましたが、園生の姿をそこでは殆ど見られませんでした。
 - ・会議室で説明して下さい、ご案内して下さいの総看護師長、並びに各病棟の看護師長、そして職員の方々の若さに驚きました。
- 医療機関であり、生活の場でもある重症児施設の生活支援はどのようなものであるか関心のある事項でしたが、生活面でのQOLについてもっと知りたいと感じました。
 - ・車椅子が利用される様子が見受けられず、移動が少ないようでした。しかし、職員さんが観察する上では、プレイルームが生活の中心であるので、安全面は確保されているように感じました。
 - ・長時間いるプレイルームにも、当然中央配管ができており、部屋に戻らなくても、酸素吸入、痰の吸引が素早くできるようになっており、安全面での配慮がそれなりにできていると感じました。
 - ・各病棟のナースステーションの両側は、医療ケアが絶えず必要な方の部屋（4名×2カ所＝8名）が続いており、職員が無駄な動きをせずに医療対応ができる構造になっていて、合理的な配置がなされていました。
 - ・入浴設備は、二病棟を挟んだ位置にあり、100名の方が利用するには、それ程大きくなく、一人ひとりに多くの時間をあてることはできないように思われました。
 - ・食事介助を拜見することができなかつたのは残念ですが、水分補給を含めて合理的になされているように感じました。
- 一階の訓練室（PT・OT室、スヌーズレンルーム等）は、最新設備機器を取り入れられていますが、400名となると、広い一カ所に集中されるより、各階において利用しやすい小訓練室があればいいなと感じました。
- 保護者会については、400名全体の保護者会という組織ではなく、月一回各病棟単位で施設側と保護者が懇談しているとのことでした。
- 2年前に新築されたばかりであり、医療機器等のハード面は規模的にはかなり備わっている様子ですが、設備を生かす為のソフト面（職員の人員配置や研修等）をもう少しお聞きしたかったのと同じ時に、一人ひとりの生活の様子を知るには時間が足りず物足りなかつたように感じました。

「全国重症心身障害児（者）を守る会の北浦会長は常々「施設は園生が豊かに過ごす生活の場でもあります」と話されていますが、全国的にみても地域間格差があり、重症児施設によって違いがあると感じます。その意味では枚方療育園は医療施設として、健康・安全を重点において運営されているように感じました。今後、これにプラスして生活面での取り組みを更に充実し、大阪が誇れる施設になってほしいと思います。

これからは重症児施設も自立支援法の中での運営となり、厳しい時代を迎えようとしています、当

重症心身障害児者施設建設支援のための チャリティコンサート

- 幸せは優しい音色とともに -

日時：平成17年11月6日（日）
午後1:30～4:00（12:30開場）

住み慣れた街で普通に暮らしたい
そんな願いに応える為の拠点として、大阪市で初めての施設が建設されることになりました。

出演：大阪すみよし少年少女合唱団
明浄学院高校吹奏楽部
帝塚山スタジオ（フラメンコ）
夕陽丘高校音楽科、蒲生絢子、
呉允栄、住本紗恵

会場：メルパルクホール
（大阪市淀川区宮原4-2-1
TEL 06-6350-2111）

主催：南大阪療育園新施設建設資金協力会
後援：大阪市、
大阪市社会福祉協議会、
読売光と愛の事業団、
産経新聞大阪新聞厚生文化事業団、
毎日新聞大阪社会事業団、
朝日新聞厚生文化事業団、
NHK厚生文化事業団近畿支局、
大阪府重症心身障害児・者を支える会
大阪市重症心身障害児・者を支える会



OTK
FAMILY
No.46

No.46

大阪府重症心身障害児・者を支える会
全国重症心身障害児・者を支える会
大阪支部

守る会三原則

最党も親に決
も派、個弱し
弱を重人いて
い超症がも争
もえる見いの
のこ・か生は
をことなるは
一と運動主
人も動主
ももに参主
れ加張
無するが
く守る者
守る者
は争
の
中

皆様の御協力により、上記のチャリティイベントが盛大に催されました。

出演いただきました皆様、並びに準備及び開催に力を貸していただきました実行委員・スタッフの皆様、また、広報やチケットの販売に御協力いただきました皆様、そして、御来場いただきました皆様に心から感謝申し上げます。本当に有難うございました。

「平成17年度近畿ブロック勉強会」に参加して

四天王寺和らぎ苑 家族の会 津垣 良隆

平成17年度近畿ブロックの勉強会が、9月3日（土）奈良県文化会館で開催されました。講演のテーマは「障害者自立支援法（案）について」で講師は、厚生労働省障害福祉課課長補佐の澄本英俊氏です。定員は250名でしたが、満席の状態でした。

大阪支部からは、なんと3名のみのお出で大阪支部の空いた席は、福井支部の方々にお譲りしました。（参加申込後、追加の参加者が増えたために席が足りなかったそうです。）和らぎ苑家族の会の9月度の役員会を中止して、この勉強会に参加する予定にしていたが、8月8日に郵政民営化法案が参議院で否決され、関連法案もそれに伴いましたので、「廃案になった法案の勉強会に行っても意味がない。」との一部役員からの私的な発言があり、その発言に賛同する役員も出てきたために家族会では自由参加としました。その結果、残念ながら、会長の私1人の参加となりました。他支部の方々の多くの参加を目の当たりにして、同じ重症心身障害児者をもつ親として、なぜ大阪だけが少ないのか疑問を感じました。

都道府県別人口で、近畿ブロックでは大阪：863万人、兵庫：547万人、京都：260万人、奈良：143万人、滋賀：132万人、福井：82万人の順で、人口の少ない県ほど予算が少なく、運動をしっかりと続けていかないと、障害福祉が後退するからではないかと思っています。

今回の勉強会の結論を先に申し上げますと、非常に有意義な勉強会で、約1時間半の講演と質疑応答の40分間は、時間が足りない位でした。

主な点を列挙します。

- この法案は、衆議院を通過して、参議院で6時間審議された時点で8月8日を迎えて、現状では、審議未了になっているために次期国会で再提出される。
- 当初この法案の施行時期は、平成18年1月としていたが、審議未了により平成18年3月以降となり、平成17年度予算が変わってきた。予算の足りない部分は、市町村にお願いする予定である。
- 在宅サービスに係る予算の状況
14年度：493億円、15年度：516億円、16年度：602億円、
17年度：930億円で、このまま増えると平成22年度は約2,000億円となる。
国にこのお金はない。厚生労働省全体の予算は、6,000億円、最大で7,200億円位である。
- サービスの地域格差を無くしていきたい。
これまでは、基準があって無かった。施設入所者について、ある施設はすべてA、また他の施設ではすべてCと判定している。
- 人口1万人当たりの支援費ホームヘルプサービス支給決定者数
全国を比較すると滋賀県と大阪府が、非常に多い。支援費最大7.8倍である。
- 全国の市町村で調査を行う。
どのような障害者が居られて、どういうサービスが必要かを調査する。
これを行わないと障害者施策は、変わらない。調査には、時間がかかるが、日本の障害者施策が出てくる。これを発表していく。地域の格差を直していきたい。やらなければならないものは、近い将来やる。再度見直しも行う。
- 精神病院におけるいわゆる72,000人の社会的入院患者の解消を図るとともに、それらの者の地域における生活が円滑におこなわれるよう、必要な措置を講ずること。
これは、大きな問題でむづかしいが、計画性をもって動かしていく。

質問

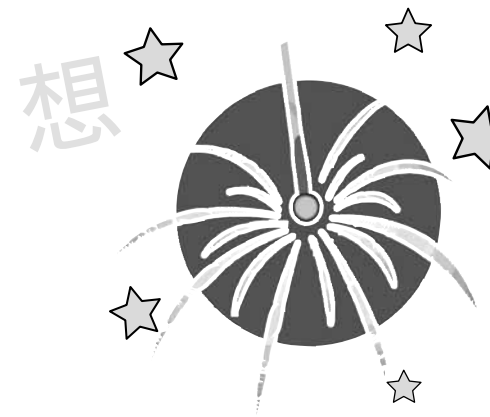
- 障害程度区分の認定について、正当に認定出来ますか？
- 障害者の住民票を施設に移して、施設まかせになり、問題はありますか？
- 現在の医療施設で、福祉型の入所者が多いと判定された場合、施設の運営はどうなりますか？（この質問には、答えようがない。今まで甘い汁をすすっていたのか。国の救済は無い。経過措置をもうけるので、健全経営をしていただきたい。）
- 施設に医療入院されている方で、福祉型？と判定された方は、他の施設に行かれるのですか？
- 強度行動障害者の施設を設置されますか？
- 保護者がいなくなった場合の成年後見人制度について。

等、沢山の質疑応答がありました。

事者である親、保護者が団結し、重症児者に代わり、施策の問題点を代弁提起し、多くの人に理解をしてもらう運動を広げていかなければ、重症児者の生きていく道は一段と険しくなるであろうと感じた一日でした。

記 見学者

みんなの コーナー



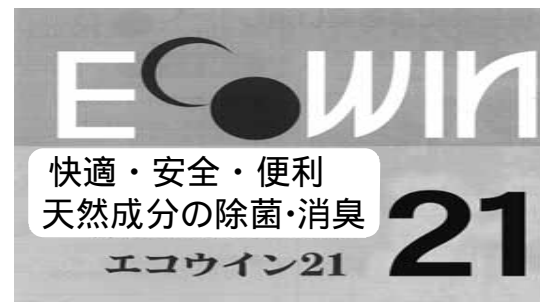
「皆さんの声」をお待ちしています。

星空の公園の中皆集い花火に興ずる童心に帰り
公園に皆集まりて花火する 光りの祭典楽しき歓声
懐かしき線香花火の菊柳 織り成す模様的美しさ
花火会 公園の中子供達(ら)のはしゃぎ廻りぬ平安の日々
障害者出来ない事を嘆くより出来る事を感謝で生きぬ
十年ぶり外出できし喜びも福祉削減で穴蔵へ戻りぬ

楽しい状況や積もる感情がよく伝わります。Nさんすばらしい歌を有難うございます。

機関紙「支える」に投稿して下さい。
日常の事など表現してみませんか？
大阪府重症心身障害児・者を支える会
TEL 06 - 6624 - 2555
FAX 06 - 6624 - 2556 担当：清水

好評発売中

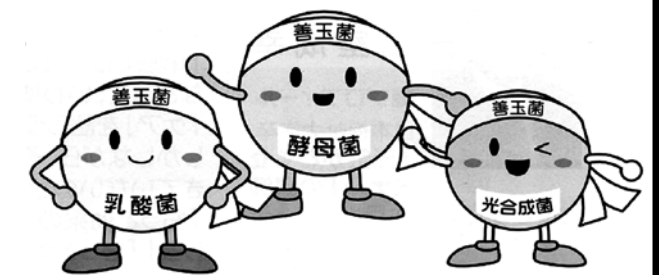


「エコウイン21」金額：
250ml(約2.5リットル) = 1,000円
500ml(約5リットル) = 2,000円
10倍に希釈して使用します
スプレー容器: 250円(目盛付) 必要の方のみ

エコウインって何？

エコウイン21は自然界に在る乳酸菌・酵母菌・光合成細菌などの80種以上の人にとって有用な微生物群(善玉菌/蘇生菌)を集めて培養したもの。酒や味噌・チーズなどの発酵食品に使われている微生物と同じ仲間。

有用微生物群(=善玉菌)が活躍する時代に化学薬品・化学農薬に代わって、水質浄化・土壌浄化・生ゴミ分解・畜産飼料などに広く活用されるようになってきました。



全国重症心身障害児(者)を守る会 平成17年度 近畿ブロック研修会

日時：平成18年1月21日(土)午前10時～午後4時
会場：大津市・コラボしが21 3階大会議室(予定)
テーマ：1, 成年後見制度と障害者自立支援法
講師；滋賀県社会福祉士会理事 石川 肇氏
2, 重度重複障害者の合併症について
講師；第二びわこ学園副園長 小川 勝彦氏
申込み・問い合わせは事務局までお願いします。

「支える会」事務局

〒545-0021
大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
育徳コミュニティーセンター2階
大阪府重症心身障害児・者を支える会
会長 鈴木 祥子
TEL 06-6624-2555
FAX 06-6624-2556
<郵便振替> 00930-9-69598



支える会ホームページのご案内

ドメイン名 <http://www.sasaeru.or.jp/>
メールアドレス osaka@sasaeru.or.jp
様々な御意見・御質問や情報をメールや
掲示板にお寄せ下さい。

全国・各地へ
リンクあり!



《会費納入のお願い》

既に納入がお済みの方にはあしからずお許しを賜り
ますようお願い申し上げます。
<問い合わせ> TEL 06-6624-2555
FAX 06-6624-2556
<郵便振替> 00930-9-69598
大阪府重症心身障害児・者を支える会

編集後記

昨今の大きな利益を上げていく企業が野球
団やテレビ事業に進出と社会を騒がせていま
す。理由のひとつとして現在の価値が世間よ
り低いので適正な価値に引き上げ、お互いが
得をするような経営にしようということだそ
うです。
自立支援法が成立しようとしています。
お金に困ったこの国は一番弱い立場の方から
節約をしよう決めました。家計の節約は普
通警沢を我慢することからはじめるのではな
いでしょうか？
若者も老人も子供も日々命を一番大事にし
て暮らしています。命そのものの一番弱い立
場の方を大事にすることは命の価値をひき上
げることと同じです。早く彼らの輝きに気づ
いてほしいです。(M.S.)

編集・責任者
(事務局)
〒五四五〇〇二一
大阪市阿倍野区阪南町五 一五 二八
育徳コミュニティーセンター2F
TEL 〇六 六六二四 二五五五
FAX 〇六 六六二四 二五五六
運営委員長 鈴木 祥子
郵便振替口座
〇〇九三〇一九一六九五九八
大阪府重症心身障害児・者を支える会

発行所 大阪身体障害者団体定期刊行物協会

吹田市千里山西六 二七 一一

(会員の方は会費の中に含まれています)



おしまコロニー・星が丘寮
施設長 寺尾孝士氏

「強度行動障害問題を考える研修会」開催
去る9月4日(日)、「大阪科学技術センター」に於
いて、おしまコロニー・星が丘寮施設長の寺尾孝士
氏を講師にお招きし、「行動障害を示す方たちへの
取り組み」をテーマに、研修会が開催されました。
9年前、おしまコロニーを見学し、TEACCH
プログラムの構造化のアイデアを使って、強度行動
障害を示していた方々が落ちついて作業や日常生活
をしている状況を目のあたりにしたのがこの問題に
取り組むきっかけとなりました。

強度行動障害を示している人たちは、知的障害が
ベースにあり、自閉症が60%・自閉症とトゥレット
障害などの合併が30%・残り10%がADHD
などであり、従って90%が自閉症の障害があると
いうことです。
なぜ自閉症の人が行動障害を示しやすいのか？
その原因を考えた時
自閉症の障害が正しく理解されていない。特性に
配慮した養育・療育がなされていない。
育ちの中で、ライフステージに応じた必要なもの
が提供されていない。
知的障害と同じ療育方法がとられている(自閉症
の人たちとは違ってもかかわらず)。
早期に診断されても、育て方がガイダンスされて
おらず、よい育ちのスタートができていない。
感覚障害や、コミュニケーション障害などに対し、
彼らの側に立つのではなく私たちの側で考えてし
まう。私たちと同じように話し言葉だけにたより
(自閉症は視覚的に考え、理解する)不安な状態や、
強いストレスにさらしている。
など、私たちの障害認識にこそ問題があったことを
再度お話ししました。
そして、「自閉症の障害特性と困難性を知らないで
強度行動障害に関わることは無謀である。分からな
いに関わることによって、いかに苦痛を強いている
か」ということを何度も強調されました。
「自閉症の障害特性と一人ひとりの機能レベルと個
性を知ることの大切さ」ということで
評価・観察
個別目標の設定
日課のスケジュールの提示

物理的構造化
ワークシステム
視覚的に明確に伝える配慮(見ただけで分かるよ
うに)
ルーティン(決まった手順や習慣)
コミュニケーションといったことに、取り組んで
おられるとのこと。
続いて、支援するスタッフ、職員の行動障害を示して
いる方たちへの対応では、
・手探りのいい加減な対応
・行動障害に対する単純な制止
・結果だけを見て対応を考える
のではないということを示され、状況や原因等を検
討し、予防のための工夫や、理解しやすいように状
況を調整することなどビデオを見ながら説明して下
さいました。
星が丘寮(60名)は自閉症(成人)に特化した機能
をもち、5つのユニットに分かれ生活されています。
自閉症の人たちの幸せを考え、必要なことは適切な
支援をする方法論であり、それを実証されてきた経
緯がよく分かりました。
今、施設のあり方が問われています。
「暮らしの場、生活の場である施設で安定し、日中
活動や余暇の場として地域展開し、グループホーム
を超えよう」と職員の方々は話しておられるとのこ
とです。
「支える会」がこの問題に取り組むようになった原
点ともいえるべき、おしまコロニーでの実践も、月日
を重ね進化していることを実感した一日でした。
(S.S.)